

# 横浜市インフルエンザ流行情報 17 号

横浜市衛生研究所 / 横浜市健康福祉局健康安全課

## 《トピックス》

- B 型の患者数が増加傾向にあります。
- 全体の患者数は横ばいとなっています。

### 【概況】

2017 年第 11 週(2017 年 3 月 13 日～19 日)の定点<sup>※1</sup>あたりの患者報告数は、横浜市全体で **10.83**と、第 10 週の 10.83<sup>※2</sup>から横ばいとなっています。引き続き、警報が発令されていますのでご注意ください。

学級閉鎖等の施設数は第 9 週まで減少傾向でしたが、横ばいとなっています。医療機関、高齢者施設内での集団発生の報告は減少しましたが、引き続き、外部からの持込み防止対策や職員及び入所者等の健康観察に注意が必要です。

第 11 週の基幹定点医療機関からの入院患者の報告は、全例 B 型の報告でした。今後とも重症化については注意が必要です。

第 6 週以降、迅速診断キットの結果は B 型の報告件数および割合が増加しており、第 11 週は A 型 37.3%、**B 型 62.6%**、A・B 型ともに陽性 0.1%と、**B 型の割合がさらに多くなっています**。市内のウイルス検出状況では、ほとんどが AH3 型(A 香港型)でしたが、第 10 週からは B 型が多く検出されています。

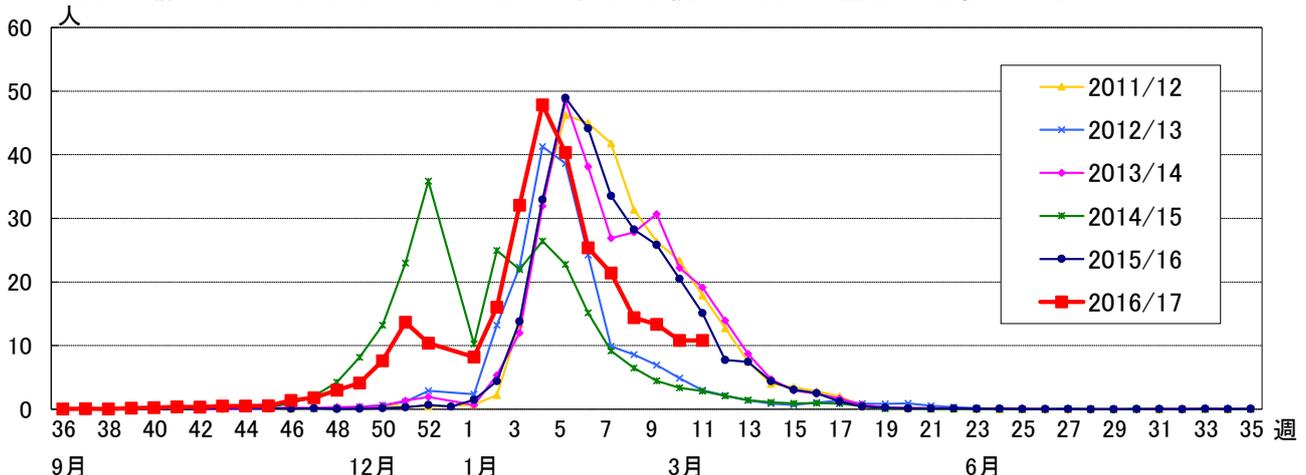
引き続き、予防や早期受診などの対策<sup>※3</sup>を心がけましょう。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内 153 か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

※2 追加報告があったため、流行情報 16 号から報告数が更新されています。

※3 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は第 11 週で 10.83 となり、前週の 10.83<sup>※2</sup>から横ばいで推移しており、警報解除基準(10.00)を下回っていません。第 4 週の 47.83 をピークとして漸減してきましたが、依然として報告は続いており、注意が必要です。



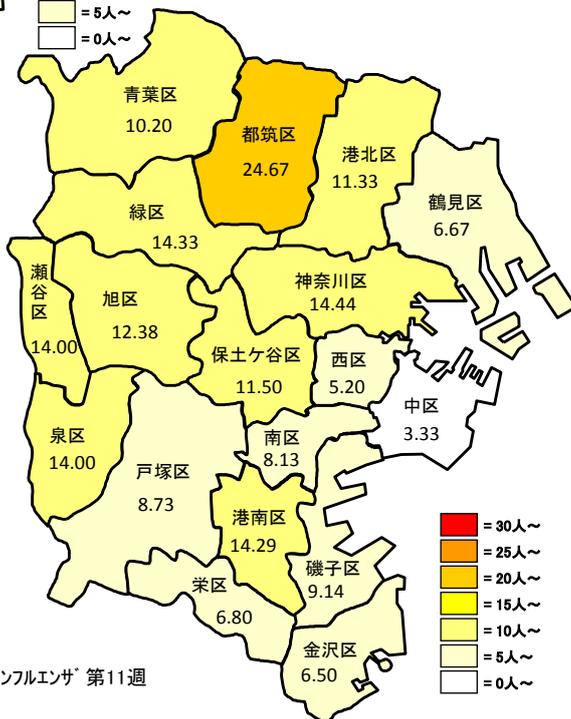
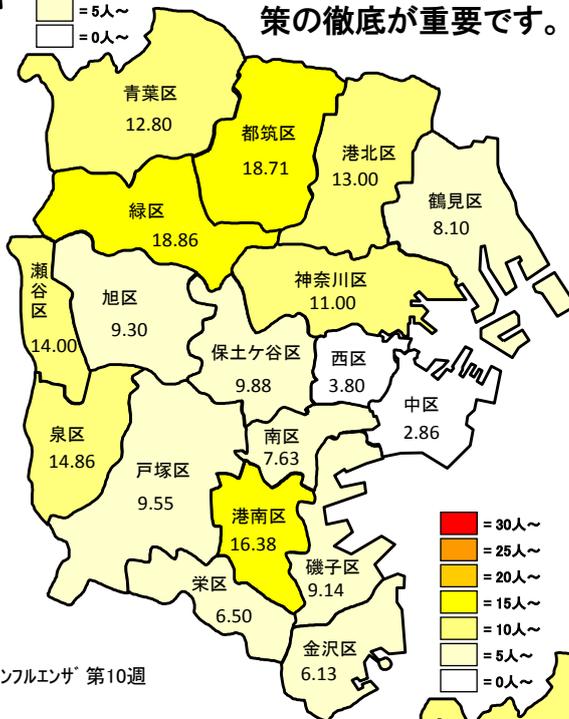
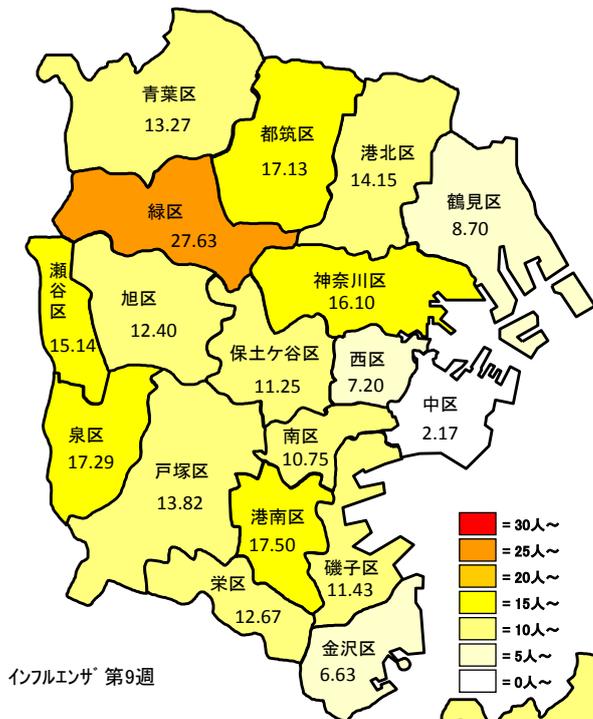
## 2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

2017年第3週(1月16日~22日)に市全体で警報発令基準値(30.00)を上回りました。

第3週は13区で、第4週は17区で警報発令基準値を上回りましたが、これをピークとして各区とも減少傾向となっていました。直近3週間は横ばいとなっています。

警報は市全体で解除基準値(10.00)を下回るまで続きます。直近の5年間では、概ね2月中旬から3月下旬までの期間に解除されており、昨シーズンは第4週(1月25日~31日)で警報発令、第12週(3月21日~27日)で解除されています。

流行警報の発令は継続しており、ワクチンの接種の有無に関わらず、引き続き、手洗い等の予防策の徹底が重要です。



### 【参考リンク】

近隣自治体の流行状況

○ [神奈川県](#)

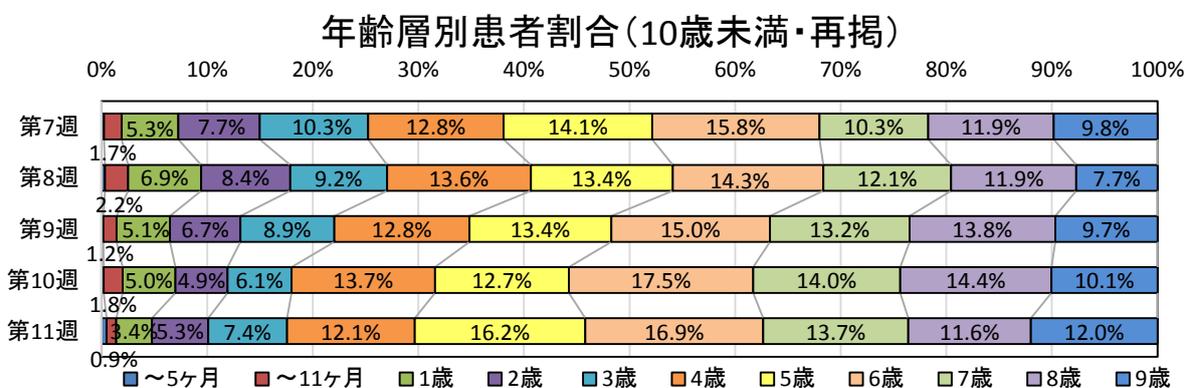
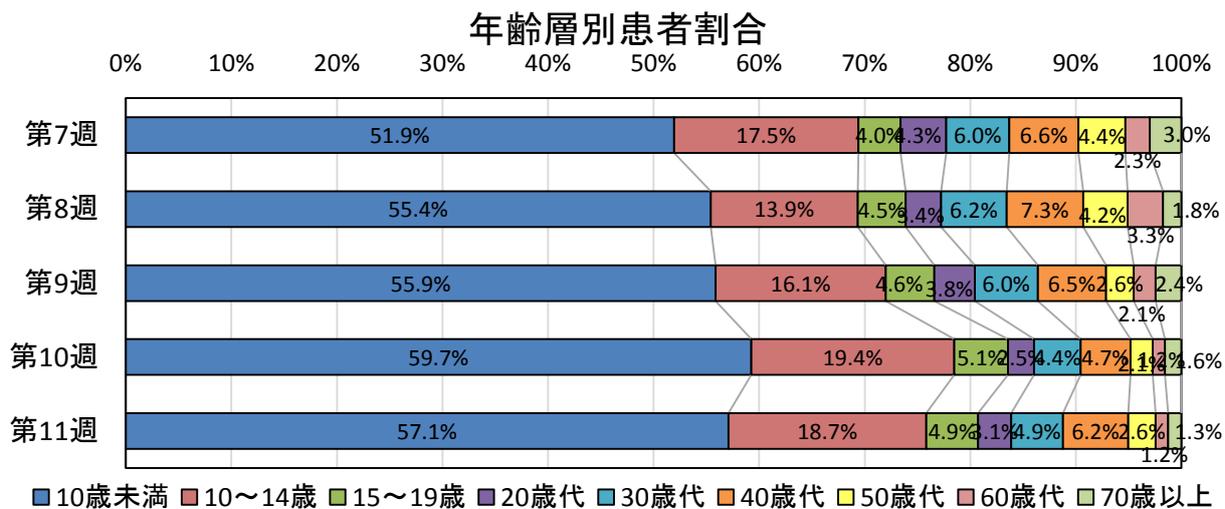
○ [川崎市](#)

○ [東京都](#)

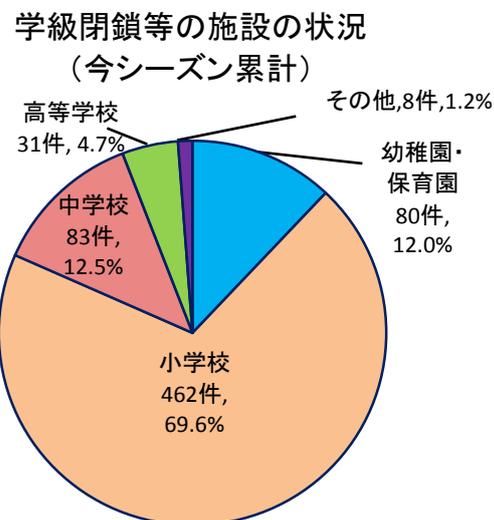
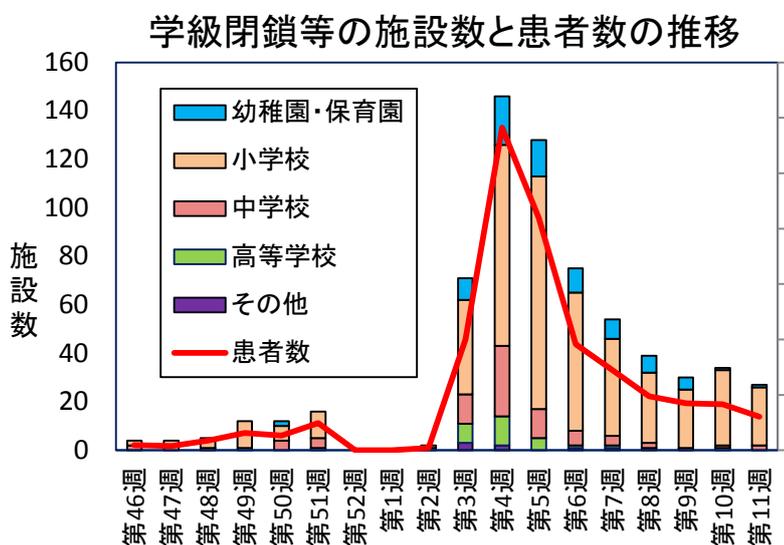
全国の流行状況

○ [国立感染症研究所](#)

**3 年齢層別集計:**第 11 週の患者年齢構成は、10 歳未満が全体の 57.1%、10～14 歳が 18.7% となっており、依然として 15 歳未満の割合が多くを占めています。学級閉鎖等の報告は横ばいで推移しており(本文4参照)、引き続き学校での感染予防策の徹底が重要です。



**4 市内学級閉鎖等状況:**第 9 週まで減少傾向にありましたが、第 10 週にて施設数が増加に転じた後、第 11 週はやや減少しており、横ばい状態です。内訳は、幼稚園・保育園 1 件、小学校 24 件、中学校 2 件で、小学校が多くを占めています。第 11 週で報告された患者数(医療機関で診断された人数とインフルエンザ様の症状のある人数の合計)は 303 人で、第 10 週の 415 人から減少しています。

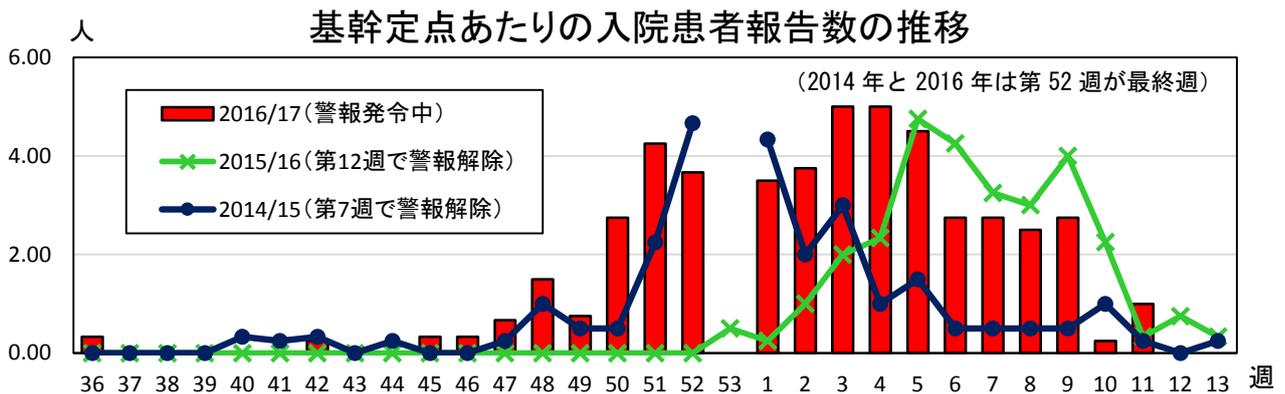


**5 入院サーベイランス:**第 11 週の市内基幹定点医療機関<sup>※4</sup>あたりのインフルエンザ入院患者報告数は 1.00 で、迅速診断キットの結果はすべて B 型でした。今シーズンは累計で 188 人となっています。

入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU 入室、人工呼吸器の使用、頭部 CT 検査、脳波検査が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者(以下、重症入院患者)は、特に小児と高齢者で多くの報告があります。

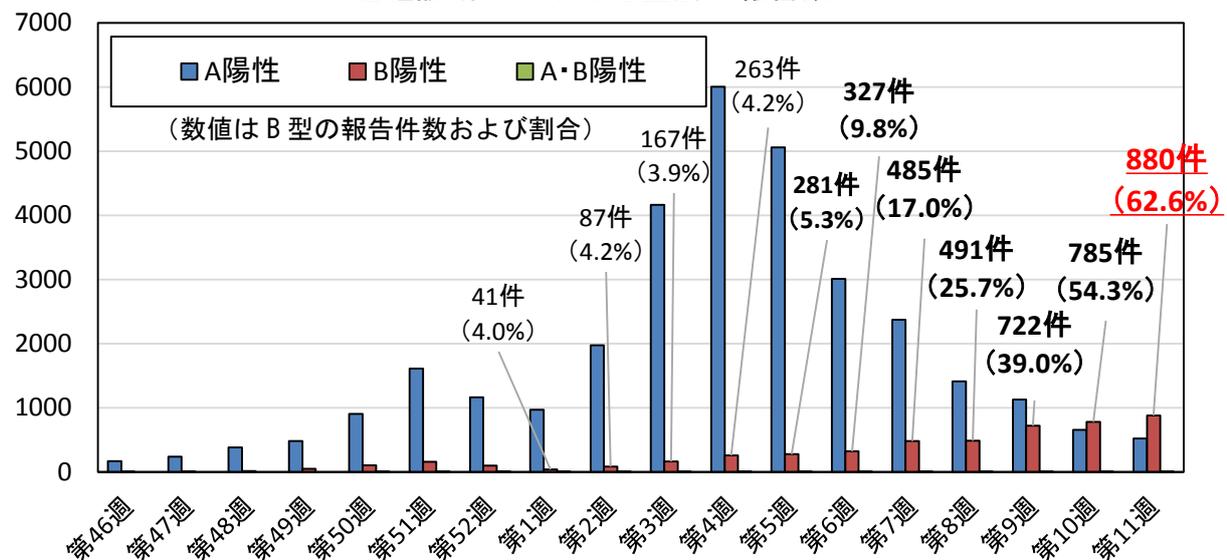
これまで迅速診断キットの結果が把握されている事例は、第 8 週まではすべて A 型でしたが、第 9 週と第 11 週で B 型の事例が報告されました。いずれも 15 歳未満で、重症入院患者ではありませんでした。

※4 基幹定点:患者を 300 人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には 4 つの基幹定点があります。



**6 迅速診断キット結果:**第 6 週以降、B 型の報告数および割合が増加しており、第 11 週の迅速診断キットの結果は A 型 525 件(37.3%)、B 型 880 件(62.6%)、A・B 型ともに陽性 1 件(0.1%)でした。第 10 週から B 型の占める割合が多くなっており、報告数も増加しています。今後の B 型の動向に注意が必要です。

横浜市の患者定点医療機関における  
迅速診断キットによる型別の報告数

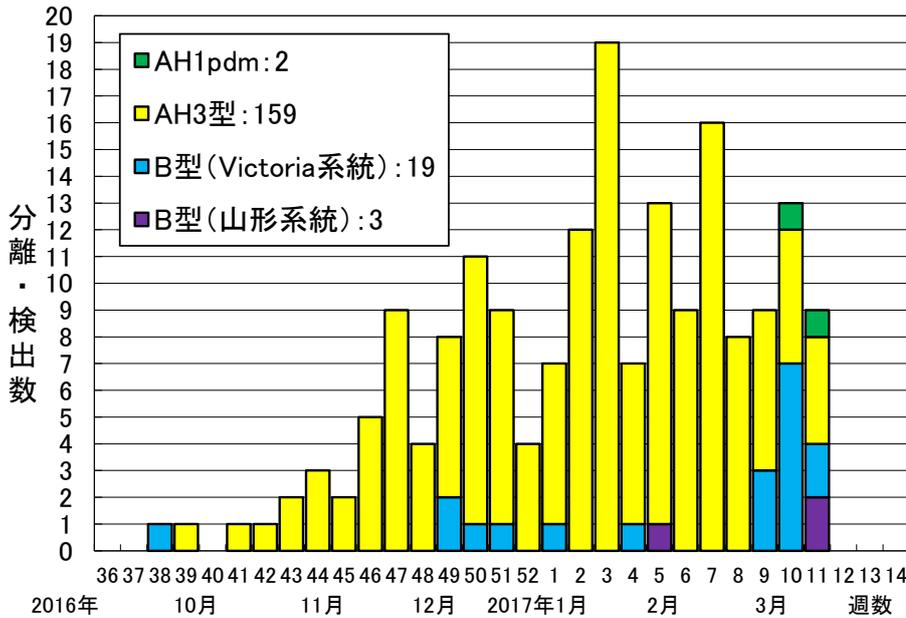


**7 市内病原体検出状況:**第 8 週までは市内では、病原体定点医療機関<sup>※5</sup>から AH3 型が最も多く分離・検出され、全国の状況<sup>※6</sup>と同様でした。一方、市内では第 9 週以降、B 型(ビクトリア系統)の検出が増加し、第 11 週では B 型(山形系統)が検出されています。また、第 10 週・第 11 週で今シーズン初の AH1pdm が検出されています。

※5 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に 17 か所あります。うち、インフルエンザについては 12 か所にて採取されています。

※6 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

病原体定点からのインフルエンザ分離・検出状況  
(2017年3月22日現在)



インフルエンザウイルス(AH3型)の電子顕微鏡写真  
(撮影:横浜市衛生研究所 微生物検査研究課 2017年3月)

【参考】

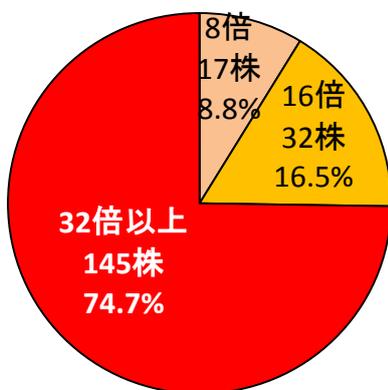
市内で分離された AH3 株(細胞培養した 194 株、3 月 21 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)は、ウサギの血清を使っているため参考値ですが、すべて 8 倍以上でした。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内であり、現在までに市内で分離された AH3 株については、ワクチン株と類似しているとは言えず、国立感染症研究所の結果と矛盾しない結果<sup>※7※8</sup>と考えられます。

一方、市内で分離された B 型株(細胞培養した 18 株、3 月 8 日現在)については、すべて 4 倍以内でした。

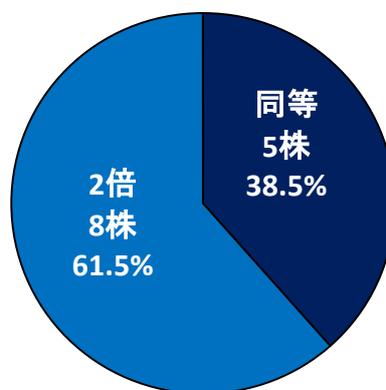
※7 [インフルエンザウイルス流行株抗原性解析と遺伝子系統樹 2017 年 2 月 24 日\(国立感染症研究所\)](#)  
 ※8 [A\(H3N2\)亜型野外流行株の抗原性解析結果\(国立感染症研究所\)](#)

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析

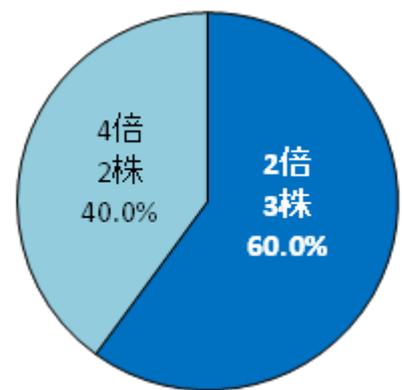
AH3 抗原性解析(194 株)



Bビクトリア系統抗原性解析(13株)



B山形系統抗原性解析(5株)



■ 同等 ■ 2倍 ■ 4倍 ■ 8倍 ■ 16倍 ■ 32倍以上

【お問い合わせ先】横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045(370)9237  
 横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045(671)2463